

植物防疫情報第5号

平成30年8月15日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

モモせん孔細菌病の秋季防除を徹底しましょう

本年発生した圃場では来年の発生が多くなる恐れがあります。本病は単独の対策のみでは十分な防除効果が期待できず、防除を体系的に行う必要があります。このため、秋季からの防除を徹底して、次作に備えましょう。

1. 発生状況

岡山県病害虫防除所が8月10日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の葉での発生圃場割合は57.1%で、平年(29.1%)よりも依然として高く、さらに発病程度が高い圃場が増加しています(図1)。本病が本年多発した要因は、①昨年の発生が平年よりも多かったことに加え、9月以降の台風等の風雨により病原菌が広範囲に飛散・感染したため越冬伝染源量が多くなったこと、さらに、②本年の春先の高温・多雨の影響により、第一次伝染源となる春型枝病斑が極めて早い時期から多量に形成されたためと考えられます。

2. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 本病の発生圃場において、新梢の枝病斑(夏型枝病斑、図2)から秋期に飛散した病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬して、翌年4月以降に次作の重要な伝染源となる春型枝病斑を形成します。このため、**夏型枝病斑を除去**し、圃場外に持ち出し埋設するなど適切に処分することが極めて重要です。
- (2) 越冬伝染源量を下げするため、**9月～10月の秋季防除**を徹底しましょう。9月上～中旬にバリダシン液剤5の500倍(収穫7日前まで、4回以内)またはスターナ水和剤1,000倍(収穫7日前まで、3回以内)を散布しましょう。また、併せて9月下旬と10月上旬にICボルドー4 1 2(30～50倍)を2回散布すると、さらに越冬伝染源量の低下に有効です。
- (3) 風当たりの強い圃場では薬剤だけでは防除効果が得にくいいため、防風ネット等の**防風対策**を徹底しましょう。

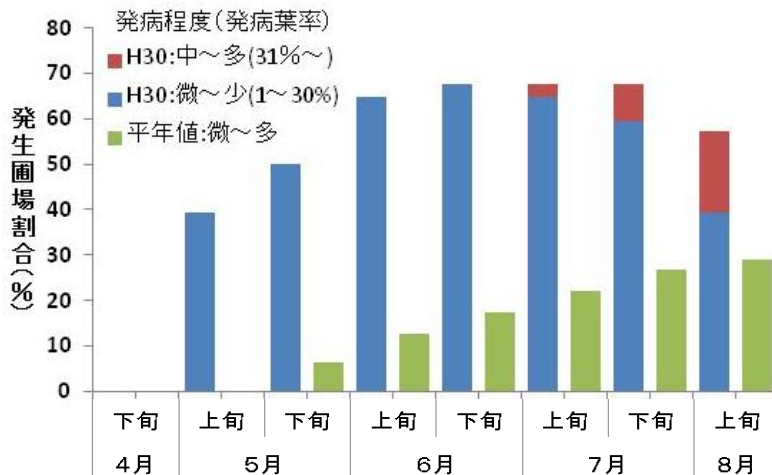


図1 本年の岡山県内におけるモモせん孔細菌病の発生推移

(岡山県病害虫防除所による巡回調査データ)

(4月～5月及び8月は7地点28圃場、6月～7月は10地点37圃場)

図2 夏型枝病斑(新梢)

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。 **収穫後の農薬使用は、次作(平成31年作)での回数のカウントとなりますので注意してください。**

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

